164

## 西ノ原Ｂ遺跡（にしのはらびー）

（日置郡松元町石谷字西ノ原）

### 位置と環境

遺跡はJR上伊集院駅より北に約1.3㎞離れた標高約190ｍの北側に突出した痩せ尾根のシラス台地上に立地している。同じ台地上に前山遺跡，小さな谷を挟んだ台地には仁田尾遺跡が所在する。

### 調査の経緯

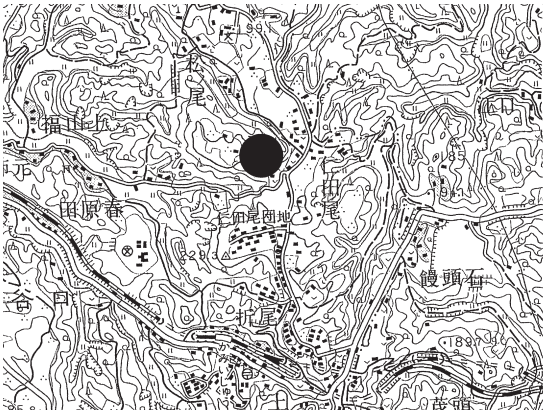
調査は，南九州西回り自動車道建設に伴って，県教育委員会が平成６年に発掘調査を実施した。調査面積は1,300㎡である。

### 遺構と遺物

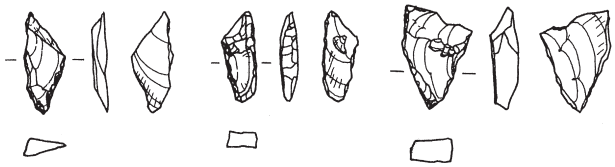
旧石器時代ナイフ形石器文化期，旧石器時代細石刃文化期，古墳時代の遺物や遺構が発見された。

旧石器時代では，約1,300㎡の範囲に，礫群１基と14か所のブロック（遺物集中箇所）が検出され，2,861点の遺物が出土した。礫群はⅦ層から検出され，ブロックはⅧ層に１か所みられ，そのほかⅦ層に集中した。石器は，細石刃核７点，ブランク１点，細石刃43点，調整剥片５点，三稜尖頭器１点，ナイフ形石器４点，台形石器４点，加工痕のある剥片９点，スクレイパー８点，剥片600点，砕片2,129点であった。石材は，黒曜石・めのう・砂岩・チャートなどであったが，黒曜石が主体をなし，県内産のほか，県外の椎葉川・針尾島・腰岳・姫島産の黒曜石がみられ，細石刃を伴うもの，伴わないブロック，細石刃とナイフ形石器が共伴するブロックなどに分かれ，石器製作跡に時期差があることを知り得る遺跡である。

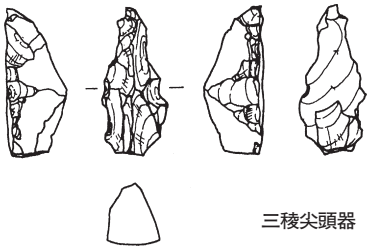
写真１　西ノ原Ｂ遺跡　航空写真（北から）




第１図　西ノ原Ｂ遺跡の位置



ナイフ形石器



三稜尖頭器

第２図　旧石器時代出土遺物

### 特徴

旧石器時代のナイフ形石器文化期から細石刃文化期への移行期の遺跡として重要である。

### 資料の所在

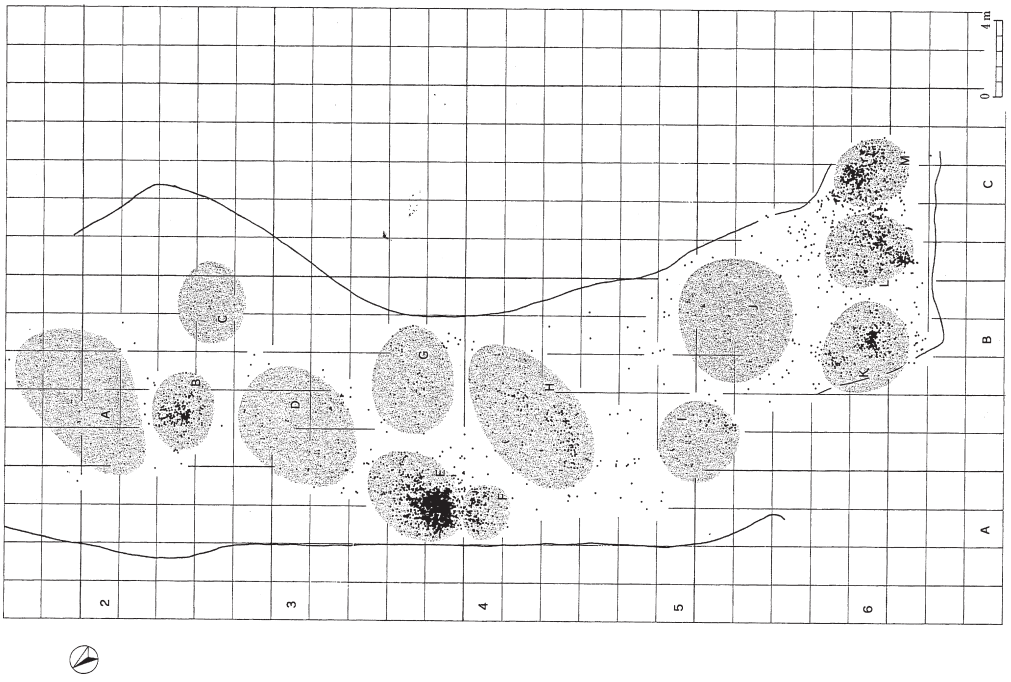
出土遺物は，鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

### 参考文献

鹿児島県立埋蔵文化財センター2001「柊堀遺跡・西ノ原Ｂ遺跡」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』30

（牛ノ濵　修）

第３図　西ノ原Ｂ遺跡地形図




第４図　ブロック分布図